二〇二一年二月二〇日

うららかや犬と主のペアルック　はく子

コロナ禍のマスク近づく寝釈迦かな　うつぎ

老夫婦今年限りと耕せり　かかし

飛石に屈み掬へば水温む　せいじ

陣敷きて伏兵然と浮寝鴨　うつぎ

桜湯に嫁となる娘の笑顔かな　よう子

真つ先に芽吹く醜草抜かれけり　うつぎ

春一の風の和らぐ昼下がり　わかば

助手席に洩るる寝息は受験生　むべ

コロナ禍の窓あけ入るる春の風　こすもす

盆梅の白散りてよし緋毛氈　なつき

カルストの主峰に四囲の風光る　素秀

不易なる淀の流れや春の鴨　はく子

下萌えにスキップで来るおさげの子　宏虎

レコードの針音懐かし春の昼　かかし

語り部の物の怪めきて冴返る　凡士

たんぽぽのぽつと顔出す河川敷　はく子

涅槃図の雲居馳せるは摩耶夫人　小袖

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年二月二一日